

常願寺川上流（^{くわたに}桑谷合流点上流）において ^{どしゃほうらく}土砂崩落発生（第3報）

1. 土砂崩落の概要

平成19年11月17日11時頃、常願寺川の桑谷合流点上流において、土砂崩落の発生を確認しました。この崩落土砂による下流への被害も考えられるため、立山砂防事務所では注意体制を発令し、地上及びヘリコプターによる上空からの調査を実施しました。2台のカメラにより監視を継続しており、19日16時現在、新たな崩落は確認されていません。なお、この崩落による被害は発生していません。

2. 土砂崩落の状況

崩落箇所は立山町千寿ヶ原より、約6km上流の常願寺川右岸、立山町芦峯寺地先の桑谷周辺斜面が崩壊し、河道の一部に堆積しました（別紙のとおり）。

- ・ 発生日時 不明
- ・ 推定崩壊土量 約10,000m³（川幅の3分の2程度に堆積）
底辺約100m×高さ約100m／2×平均深さ約2m
- ・ 現時点（平成19年11月19日16時現在）において河道は閉塞されておらず流路は確保されています。

3. 現在の対応状況

1) 事務所の体制

17日12時16分 注意体制発令
19日16時現在 注意体制継続中

2) 監視体制

今後降雨等により流量が増加した場合、あるいは崩壊が拡大し河道を閉塞した場合、下流に一気に土砂が流下する恐れが考えられるため、17日17時から下流2.5km地点の空谷砂防えん堤に設置されているカメラに照明設備を設置し、流水状況の監視を開始しました。

また、18日11時に現地にてカメラ（1台）を設置し崩壊箇所の監視を開始しました。19日15時20分に近赤外線カメラに交換し、夜間監視が

可能となりました。

異常が確認された場合には、関係各機関にただちに連絡することとしています。

4. 現地調査結果

19日10時から12時にかけて民間地質調査会社により目視による現地調査を実施しました。また、測量会社により現地の詳細測量を実施しました。測量結果については現在とりまとめ中です。

本日の現地調査による所見は以下のとおりです。

○崩壊原因

- ・崩壊部には岩盤が露出し、両サイドは沢地形を呈している。
- ・下部の岩盤部が降雨又は凍結融解等により崩落して上部の土砂が引き続いて崩壊したと推測される。
- ・地すべりの的に崩壊したものではない。

○今後の崩壊の危険性

- ・上部に残っている土砂（向かって左側上部の尾根状に残っている部分、右側の木の根が残っている部分、斜面上に残っている小規模な岩塊）「写真：()部」が、今後崩落する危険性が高い。
- ・崩壊上部の斜面については調査を実施していないので崩壊拡大の危険性についてはわからない。
- ・下部の土砂を撤去しても大規模な崩壊が起きる可能性は少ないと思われる。



今後崩壊する危険が高い箇所

4. 今後の対応

今後の対応策等については現在検討中です。

問い合わせ先
北陸地方整備局 立山砂防事務所
調査課長 福田 光生
TEL (076)482-1111(内線 351)
FAX (076)481-1426



写真-1 崩落土砂の堆積状況



写真-2 崩落土砂の堆積状況

